

# 第2次那覇市観光基本計画 ー概要版ー

## 第1章 計画改定の概要

### 計画改定の経緯

コロナを踏まえて、本市における観光振興の重要性を再確認し、観光振興を取り巻く世界潮流の変化、より多様化した観光客のニーズ、浮き彫りとなった本市の観光課題等を捉えるとともに、ゲートウェイ2050プロジェクトやLRT整備計画等も見据えながら地域一体となって持続可能な観光振興を推進するべく、本計画の改定を行います。

### 計画の位置づけ

本計画は、第5次那覇市総合計画を上位計画とし、関連する那覇市の他分野の計画や第6次沖縄県観光振興基本計画等と連動・整合させたものとし。総合計画の中では、まちづくりの将来像および5つのめざすまちの姿が示されており、観光は将来像及び全てのめざすまちの姿に関連しつつ、中でも「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまちNAHA」は、特段関連が深いめざすまちの姿であるといえます。

図表 本計画の位置づけ

第5次那覇市総合計画  
(2018年度～2027年度)

#### 第5次那覇市総合計画で示された観光関連の方向性

##### 【将来像とめざすまちの姿】



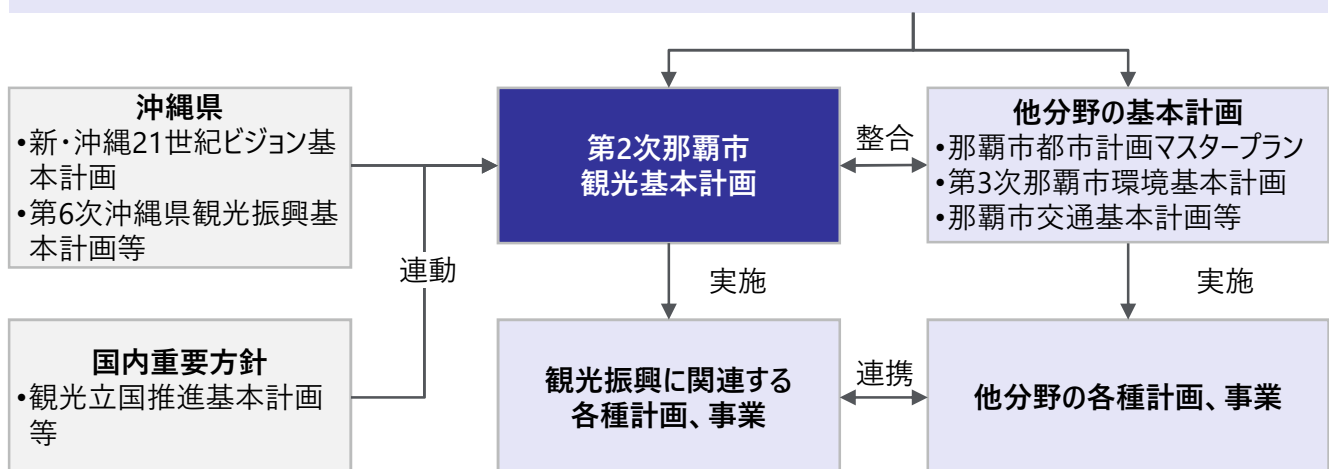
##### 【関連する方向性】

##### ➤観光と関連する「めざすまちの姿」

- ・ ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまちNAHA

##### ➤観光と関連する施策

- ・ 施策30：国際化に対応した観光環境の整備されたまちをつくる
- ・ 施策31：那覇らしい観光資源の発掘・創造と魅力のあるまちをつくる



### 計画期間

本計画の期間は、2025（令和7）年度から2034（令和16）年度までの10年間とし、5年おきに中間見直しを実施します。

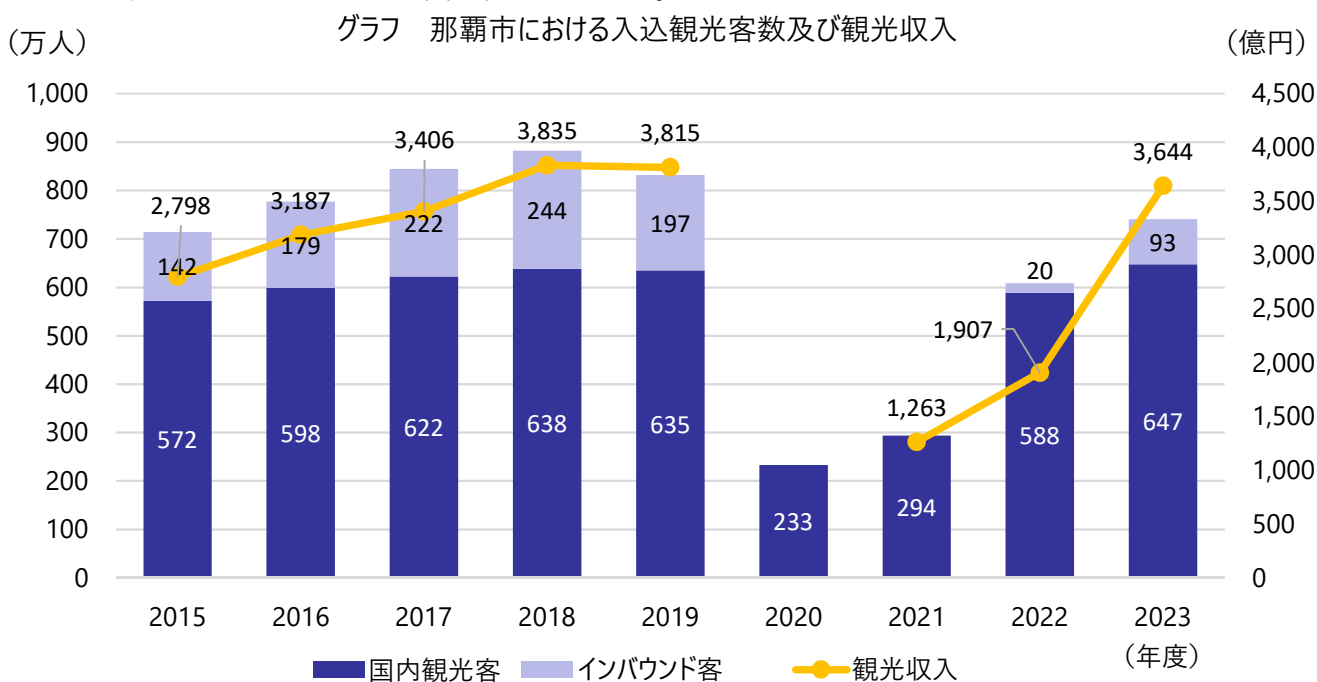
## 那覇市の観光を取り巻く状況

図表 内部環境及び外部環境を踏まえたSWOT分析

	内部環境	
	強み Strength	弱み Weakness
内部環境 (那覇市の観光特性)	①那覇空港・那覇港という交通結節点が市内に位置していること ②宿泊施設が多く充実していること ③国際通りをはじめとして、飲食店が多く充実していること ④都市型観光資源（博物館・美術館、劇場等）と文化的な観光資源（首里城公園、波上宮、識名園等）が充実しており、コンパクトに集積していること ⑤エイサーや空手、琉球舞踊、組踊などの伝統芸能や壺屋焼や琉球ガラスなどの伝統工芸があり、観光資源が豊富であること	⑥平均宿泊数が1.58日（2023（令和5）年度）と、短期間の滞在が多いこと ⑦バスにおいては、交通渋滞により定時運行に影響が出ている。モノレールにおいては通勤通学時に混雑が発生している。 ⑧道路機能に対する交通量の容量超過などにより、頻繁に交通渋滞が発生していること ⑨騒音やごみのポイ捨てなどのマナー違反がみられること ⑩観光産業全体で人材が不足していること
	外部環境	
	機会 Opportunity	脅威 Threat
外部環境 (社会経済情勢)	A)コロナが落ち着いたことによるインバウンド客の増加 B)円安によるインバウンド客の消費額の増加 C)観光客の文化体験や自然体験、食体験等へのニーズの高まり D)首里城正殿の復元、ゲートウェイ2050やLRT導入等の取組による観光客の増加	E)コロナから回復期にあたり、観光地間の誘客競争が激化 F)物価高による事業者への事業負担の増加 G)観光客の「持続可能な観光」への関心の高まりに対する観光地側の対応遅れ H)国際情勢の変化によるインバウンド客の入国減少

## 那覇市の観光実態

那覇市では、コロナの影響で2020（令和2）年度-2021（令和3）年度の観光収入と観光入込客数は大幅に減少したが、いずれの数値も回復傾向にあります。



出典：那覇市「那覇市の観光統計をもとに作成

※2020年度は観光収入の調査実施なし

## 目指す将来像および目標値

本計画では、将来像実現の進捗把握のために関連するステークホルダーごとにKGIを設定し、各取組の柱の進捗把握のために基本施策ごとのKPIを設定しています。本KGI・KPIは、中間評価（5年後）及び最終評価（10年後）における計画進捗度評価に活用し、各種取組の見直しの参考としてまいります。

【将来像】

みんなでつくる、美ら島の持続可能な国際観光交流都市

凡例：

現状値

5年後の  
目標値10年後の  
目標値

## 全体

市民、観光関連事業者、観光客などのステークホルダーが歴史、文化、自然等を尊重し、持続可能な観光を目指すことで那覇市の観光経済の最適な活性化に取り組んでいる

KGI：観光収入（国内観光客及びインバウンド客の合計）

4,126億円

5,900億円

6,800億円

## 市民

観光振興による市民生活への効果を実感し、シビックプライドが醸成されるとともに、観光客の来訪を歓迎している

KGI：観光客に来訪してほしいと思う市民の割合

55.2%

68.0%

73.0%

## 観光関連事業者\*

働き続けるための労働環境が整備されており、観光関連事業従事者が観光産業で就労する魅力を感じ、観光産業に従事し続けたい気持ちが醸成されている

KGI：今後も観光産業に従事し続けたいと思う観光関連事業従事者の割合

XX.X%

XX.X%

XX.X%

## 観光客

那覇市での観光体験を通じて、歴史・文化・自然資源等の多様な観光資源に触れることで再来訪意向が醸成されている

KGI：観光客の再来訪意向

78.8%

80.5%

82.0%

\*観光関連事業者の数値は、2026年3月に那覇市公式ホームページにて公表予定である。

## 「取組の柱」と「核とする観点・推進力」

将来像を目指して、4本の取組の柱と3本の核とする観点・推進力をもとに本計画を推進します。

みんなでつくる、美ら島の持続可能な国際観光交流都市

## 1 沖縄のゲートウェイとしての機能強化

MICE推進や観光客・市民の双方の利便性を鑑みた受入環境や都市インフラの整備等を牽引

## 2 NAHAならではのコンテンツ造成と観光資源の保全・継承

観光客のニーズ、観光資源と照らした、独自のコンテンツ造成と観光資源の保存・継承を牽引

## 3 観光産業の基盤強化

人手不足対応や労働環境改善等、観光産業が抱える重点課題への対応を牽引

## 4 地域一体推進体制の強化

行政・事業者・大学・市民といった地域の関係者や観光庁、県、重点連携地域等との連携強化を牽引

持続可能な観光推進 | 地域における社会・経済・環境・文化の持続可能な継承・発展を見据えた事業化を検討

デジタル技術の利活用 | デジタルの即時性・汎用性を最大限に活用することを見据えた事業化を検討

ステークホルダーとの連携 | ステークホルダーとの役割分担・連携推進を見据えた事業化を検討

取組の柱

核とする観点・推進力

## 取組の体系

将来像

みんなでつくる、美ら島の持続可能な国際観光交流都市

## 取組の柱

## 基本施策

## 1. 沖縄のゲートウェイとしての機能強化

(ア)国内外からの交通ターミナル機能強化  
及びクルーズ船受入機能強化(イ)二次交通の利便性向上等を通じた那覇市内外の  
周遊促進

(ウ) MICEの誘致及び機能強化、観光の充実

(エ)誰もが楽しめる安全・安心・快適な受入環境の整備

2. NAHAならではの  
コンテンツ造成と  
観光資源の保全・継承(ア)那覇ならではの歴史・文化・自然・食等を活かした  
コンテンツの充実化

(イ)データに基づく誘客戦略・プロモーションの実施

(ウ)歴史・文化資源や自然資源等の観光資源の保全・  
継承及び活用

## 3. 観光産業の基盤強化

(ア)雇用の確保、労働環境等の改善

(イ)事業の効率化・高付加価値化の推進を通じた  
「稼ぐ力」の向上

(ウ)事業活動の活性化を通じた地域貢献の拡大

4. 地域一体  
推進体制の強化(ア)適切な観光地経営に向けた  
マネジメント機能強化

(イ)市内外のステークホルダーとの連携強化

(ウ)市民生活と観光振興の調和



## 取組概要

- ◆ 空港・港等における、歴史・伝統文化に興味を惹きつけるための仕組みづくり・おもてなし向上
  - ◆ 空港・港等から市街地への円滑かつ最適な移動手段の充実化及び快適な移動に向けた環境づくり
  - ◆ 事業者と連携した、交通結節点周辺の公共スペース等を活用した物販等消費単価向上
- ◆ 主要な交通施設等における機能や交通案内等の充実化
  - ◆ まち歩きを楽しめる、安心かつ魅力的な歩行空間・景観づくり
  - ◆ 混雑情報・観光周遊ルート発信やフリッジパーキング等による混雑緩和及び市内周遊の促進
- ◆ 推進主体と関係機関、地域事業者等と連携した受入体制構築
  - ◆ 那覇ならではの文化・芸術・伝統・食を活用したMICE向けコンテンツ開発・ユニークベニュー・アフターMICEの促進
  - ◆ スポーツイベントやキャンプ等の誘致・開催促進を通じたスポーツコンベンションの推進
  - ◆ ターゲットを見据えた効果的な誘致活動
- ◆ 外国語表記や対応の充実化等の外国人観光客の受入体制の整備・強化
  - ◆ 障がいのある方、LGBTQ+、高齢者等あらゆる観光客に配慮したユニバーサルな受入環境整備の促進
  - ◆ 感染症や災害等に備えた非常時の対応強化
  - ◆ 観光における安全性確保や迷惑防止等に対する対応強化
- ◆ 滞在促進や消費向上に向けた観光コンテンツの開発及び支援
  - ◆ 歴史・文化・食文化・生活文化等を活用した体験メニュー・イベントの充実化
  - ◆ 伝統工芸品（壺屋焼、首里織等）や食材（なはまぐろ等）をはじめとする地場産品、特産品等の創造・磨き上げ
  - ◆ 那覇市の観光ゾーニングを踏まえたまち歩きの促進
- ◆ マーケティング調査データ・分析を踏まえた、性別や年代、国籍等の属性ごとのニーズや特徴の把握
  - ◆ 県内外の旅行会社に対する説明会等を活用したプロモーション
  - ◆ SNSやアプリ、QRコード等を活用した情報発信の充実化
- ◆ 歴史・文化や芸術資源の普及・学びの機会の創出
  - ◆ 那覇ならではの歴史・文化や自然、食等の観光資源に関する専門知識を有する人材の育成
  - ◆ 首里城正殿などの復元に伴う観光資源の利活用等に係る取組の展開
- ◆ 外国人材やUターン・Iターン等の多様な人材の雇用促進に向けた支援
  - ◆ 教育機関との連携による、将来的な観光産業の担い手のきっかけづくり・育成
  - ◆ 労働環境改善等の取組推進に向けた事業者への啓発
- ◆ 観光関連事業者のデジタル人材育成やデジタル技術導入の支援
  - ◆ 観光関連事業者向けオープンデータの整備・公開、データ活用促進
  - ◆ 観光関連事業者向けの、語学や“うとぅいむち”（おもてなし）等のスキルアップ講座の開設
  - ◆ 事業者の新規取組に向けた、観光関連事業者の相談受入・取組支援
- ◆ 域内調達率の向上促進
  - ◆ 観光関連事業者等による省エネルギーや廃棄物抑制等、環境に配慮した事業活動への支援
  - ◆ ボランティア活動等を通じた、観光関連事業者の地域活動への参画
- ◆ JSTS-D等の国際基準を踏まえた持続可能な観光地経営の推進
  - ◆ 那覇市観光協会の組織経営やマーケティング等の専門人材の育成・登用の支援
  - ◆ 観光目的税に関する対応の検討
- ◆ 市内の多様なステークホルダーからの意見の吸い上げ及び施策への反映
  - ◆ DMOや周辺地域及び離島との連携
  - ◆ 観光庁やJNTO等の国の機関との連携促進
- ◆ 市民フォーラムやボランティア活動等の開催を通じた観光振興に対する理解の醸成及び地域貢献の促進
  - ◆ 定期的な市民の観光振興に対する意識調査及び施策への反映
  - ◆ 公開講座等による、観光客の受入を見据えた異文化交流に係る学習機会の提供

## 推進体制の概要と基本役割

本計画では、那覇市、国・県・OCVB、那覇市観光協会、観光関連事業者、教育機関、市民が那覇市観光の将来像を共有し、それぞれの役割分担を踏まえた上で連携、協働して計画推進に取り組みます。

図表 本計画における推進体制と基本役割

### 【基本役割】観光施策の策定・展開と基盤整備

アクション例：

- ・「那覇市観光基本計画」策定・効果検証
- ・誰もが移動しやすいまちづくりに係るハード整備
- ・ステークホルダーとの連携

### 【基本役割】観光マーケティング・マネジメントの強化

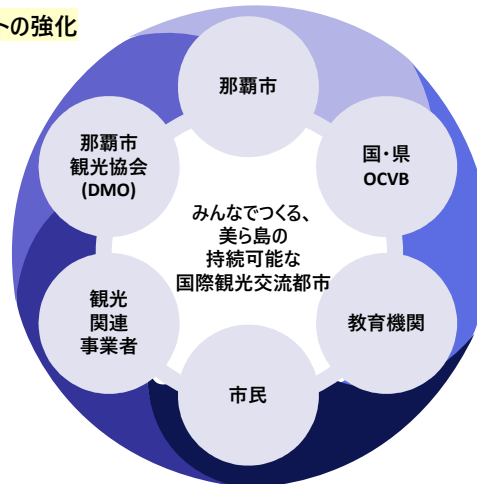
アクション例：

- ・観光関連のデータ収集・分析
- ・観光資源を活かしたソフト整備
- ・地域マネジメント  
(観光関連事業者一体としたプラットフォーム機能強化)

### 【基本役割】観光客へのサービス提供と高付加価値化

アクション例：

- ・観光計画と連動したサービスの向上
- ・那覇らしい観光コンテンツ、サービスの開発・磨き上げ
- ・雇用・経営の改善



### 【基本役割】先導的で持続可能な広域観光戦略に基づく施策の推進・支援

アクション例：

- ・国や県単位の広域課題に関連する事業支援
- ・海外プロモーションや大規模な受入環境のハード整備等

### 【基本役割】将来の那覇観光における観光地経営を担う人材の育成

アクション例：

- ・専門人材育成を目的とした研修プログラムの開発
- ・専門分野による知見に基づいた観光施策への助言

### 【基本役割】観光に関する理解関心及び観光客を迎え入れる意識の醸成

アクション例：

- ・市民の意識調査への回答
- ・那覇ならではのおもてなしの提供
- ・地域の文化の継承

## 推進のマネジメント

観光関連団体それぞれが役割を担いながら相互に連携して取り組むとともに、適切な進捗マネジメントが不可欠です。そのために、庁内での進捗管理や、観光関連団体で構成される観光審議会等を通じて、幅広い分野にまたがる本計画の各種施策を円滑に推進していくとともにPDCAサイクルに基づいて進捗のマネジメントを図ります。

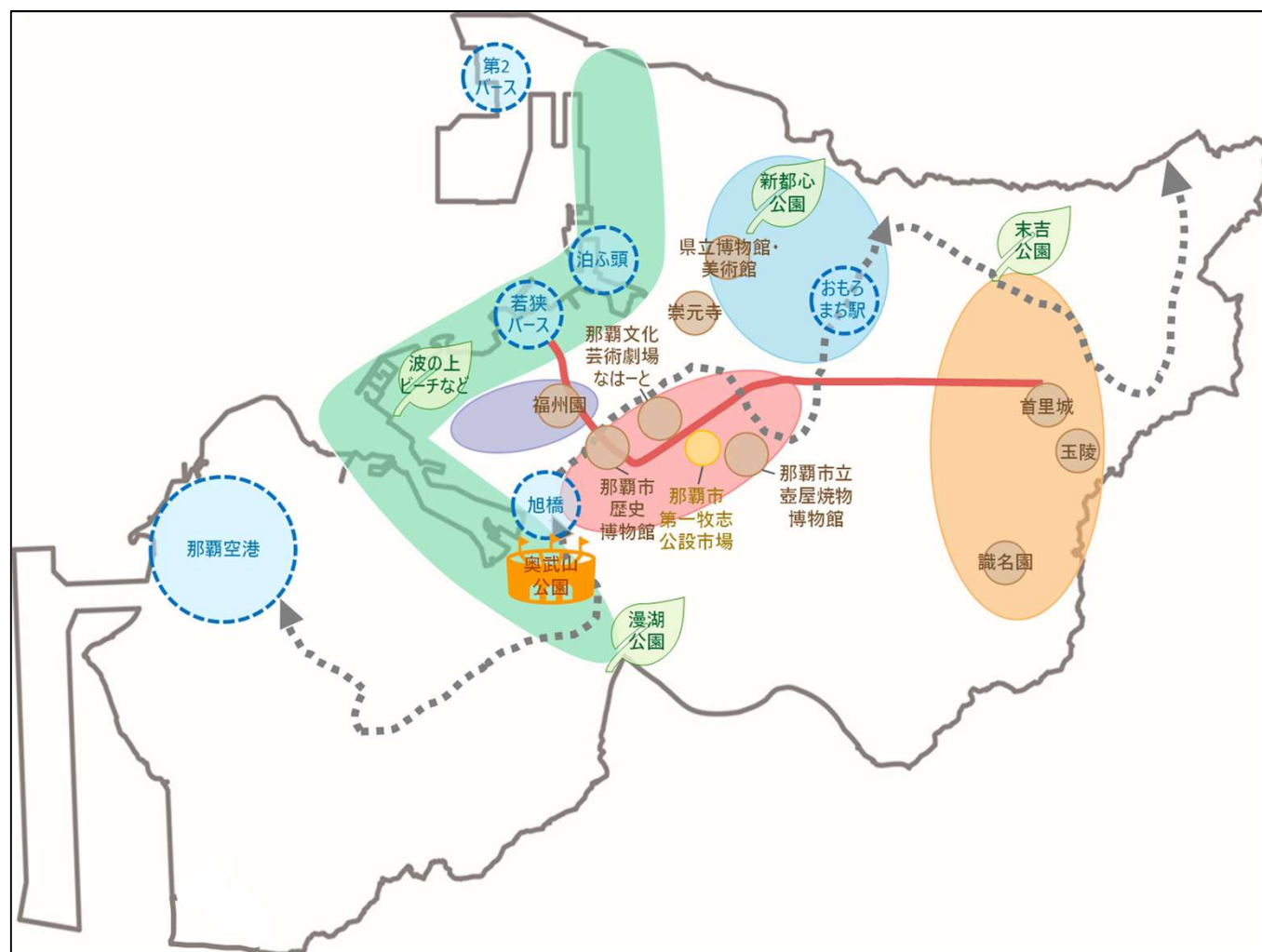


## 観光ゾーニングの目的と位置づけ

観光ゾーニングは、那覇市が保有する観光資源、歴史・文化資源、自然資源の特性、また土地の特性に合わせて、エリアを区分し、ゾーンの特徴や観光利用の方向性を想定するものです。観光ゾーニングは法的に担保するものではありませんが、都市整備や歴史・文化資源・自然資源の保護・保全計画と連携していくものです。

## ゾーニング区分

図表 那覇市における観光ゾーニングの構造図



# ゾーン

- 中心市街地賑わいゾーン
- 首里・識名歴史探索ゾーン
- おもろまち新都心ゾーン
- ウォーターフロントゾーン
- クニンダ（久米村）歴史交流ゾーン

都市の拠点

-  交通結節点
-  自然・レクリエーション拠点
-  歴史・文化拠点
-  商業拠点
-  スポーツ拠点

都市の軸

— シンボル軸  
 ■■■ モノレールの軸



## 第2次那覇市観光基本計画

---

〒900-8585 沖縄県那覇市泉崎1丁目1番地1号  
那覇市 経済観光部 観光課  
TEL：098-862-3276 FAX：098-862-1580  
発行年月：2025（令和7）年4月